

ボリビアから 帰ってきました



17年度1次隊 中沢 智恵

発表内容

I. 任地・配属先の概要

II. 活動の概要

III. 活動前後をふりかえって

I. 任地・配属先の概要

1. 任国

ボリビア共和国

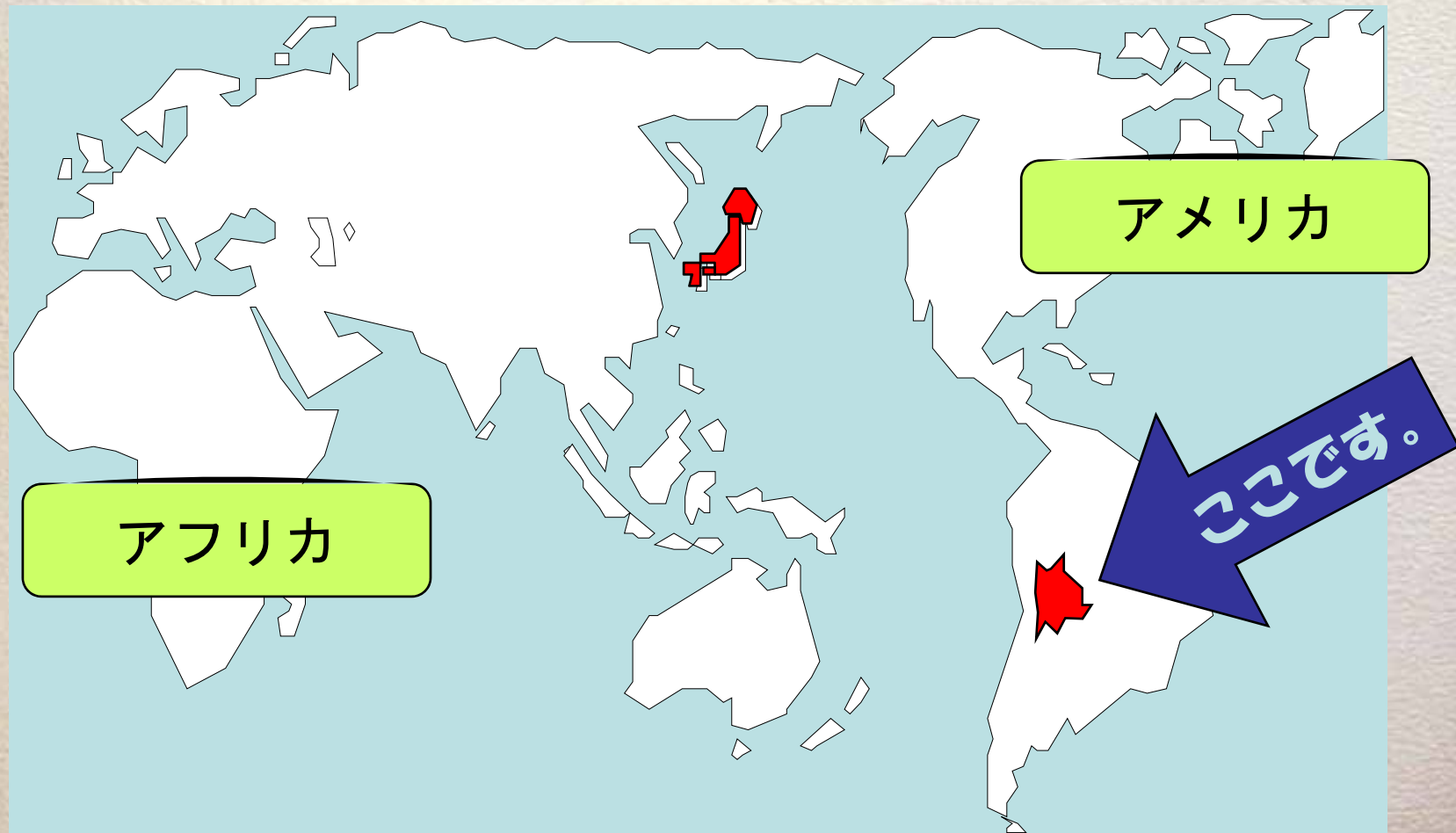
2. 任地

スクレ市

(憲法上の首都)



ボリビアって どこにあるの？



ボリビアの国旗

リャマ



コンドル



ボリビアって

- ・ 首都は、ふじさんより高いところにあります。たかさ3800m。
- ・ ひろさは 日本の3つぶん
- ・ すんでる人は、日本の15分の1



ボリビア クイズの時間です。



これは、しおのみずうみ
です。

ていがくねん もんだい ①

ボリビアも、
いま朝である。

○か ×か？



ていがくねん もんだい ①

ボリビアも、
いま朝である。

× いまは、
よるの 7 じ
はん。



高学年問題 ①

ボリビアでは、富士山より高いところにも町があり、たくさんの人がくらしています。

・ 空気がうすく、酸素が少ないためにおきることはどれでしょう。

①ふえをふくと、頭がいたくなる。

②マッチをすっても、火がつかない。

③コーラやビールのあわがたたない。



高学年問題 ①

正解は

①ふえをふくと、頭がいたくなる。

③コーラやビールのあわは、ものすごくたちます。なので、コップをすごくななめにしてつぎます。



ボリビアで 見つけたもの



トイレ



サッカーゴール

配属先概要

- ・ スクレ市 バレンティン・アベシア小学校
- ・ 職員数 29名
(校長1 事務1 学級担任17 専科8 守衛2)
- ・ スクレ市の中心部に位置する。
- ・ PROMECA パイロット校のひとつ
←パイロット校になったのは、配属された次年度のこと。

プロメカ

PROMECA (El Proyecto “Mejoramiento de la Calidad de la Enseñanza Escolar”)

- 教育の質向上プログラム
- 開発課題「子どもが主役の学習環境作り」
- 目標は、日本の経験を基にした「学校・学級経営手法」「教授法」の定着
- 大切にしていることは、授業を見合い、教師同士で学びあうこと、学級経営。

プロメカとの関わり

学校現場で、期待されていること

- ・ 教員経験の共有
 - 授業を見合おう。
 - 同僚のいいところを真似しよう。
 - 教材や授業を一緒に考えよう。

学校の様子

- ◆ パティオ（中庭）を囲むように、口の字型の校舎があります。
- ◆ 学校は、午後 2 時から 6 時まで。
（午前・午後・夜で**学校が変わります。**）
- ◆ 1 日 3 時間授業（70 分 × 3）です。

夜
音楽学校

午後
アベシア
小学校

午前 体育学校

ひとつの校舎を
3つの学校が使っています。





2階から見た中庭（校庭はありません。）

要請内容

効果的な教育分野への支援を目指す。

◆児童に対する直接指導

◆教師に対して教授法指導やカリキュラム 提案などの改善提案を行う。

◇教育分野の隊員と連携して、実態調査や改善提案のための教員向けの研修を行う。

Ⅱ. 活動の概要

活動中の思い（前・中・後）

現地で携わったこと（前・
中・後）

前半

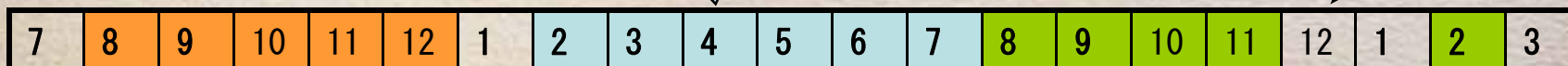
8月から12月

中頃

2月から7月

後半

8月から2月



活動中の思い（前半）

学校では、3ヶ月半ひたすら授業観察
それぞれの先生方が持っている経験・技術を学ぶ。

日本のやり方を伝えよう。
教材をたくさん作って使ってもらおう。
主になるのは先生たちだから、自分はTT
で。

なんて思っていた。

現地で携わったこと

- ・ 教員向けの算数研修会の実施
←隣の村に、算数セットが届けられ、
村落隊員より、使い方の研修会の依頼。
- ・ 算数学力テストの実施

先生方への教材紹介



- ・ 算数セットにある教具で、どのような学習ができるか紹介。

子どもたちの実態を知ろう。

- ・ 統一テストを実施。
- ・ 子どもたちが苦手なところを分析

研修会を開催しよう

- ・ 苦手分野の教材、学習法について紹介しよう。
- ・ 他の隊員と一緒に各学校を回り、先生方と学ぼう。

そんな理想を持ってはいましたが・・・。

活動中の思い（中頃）

~~お手軽な教材の紹介（授業に参加して）~~

授業を見合う会を提案

他の隊員と協力して、ミニ研修会の
実施

~~新しいことや日本のやり方を伝えるのではなく、~~

横のつながりが少ない同僚たちの経験や技術を

共有するための媒体でありたいと思うようになる。

教材・教具の紹介



これならできそうだ、と思ってもらえたらラッキー。
授業に取り入れてもらえたら超ラッキー。



必要なときには・・・協力し合って ミニ研修会の実施など



先生方に参加してもらえ
るよう、いろいろ考えま
した。作った教材をお土
産にしたり・・・お徳感
が大事です。

雨の日や、サッカーの試
合と重なると、参加者は
減ってしまいます。



専門家の方に言われたこと

専門家には、同僚として毎日を過ごし、一緒に実践をつむことができない。

耳で聞くだけじゃ先生たちのものにならない。

失敗させるんじゃなくて、失敗してみせろ。

同僚であることを改めて認識。

モデル授業の実施



一人ひとりに寄り
そって個別指導をする。

子どもたちが考える場
面を作る。



活動中の思い（後半）

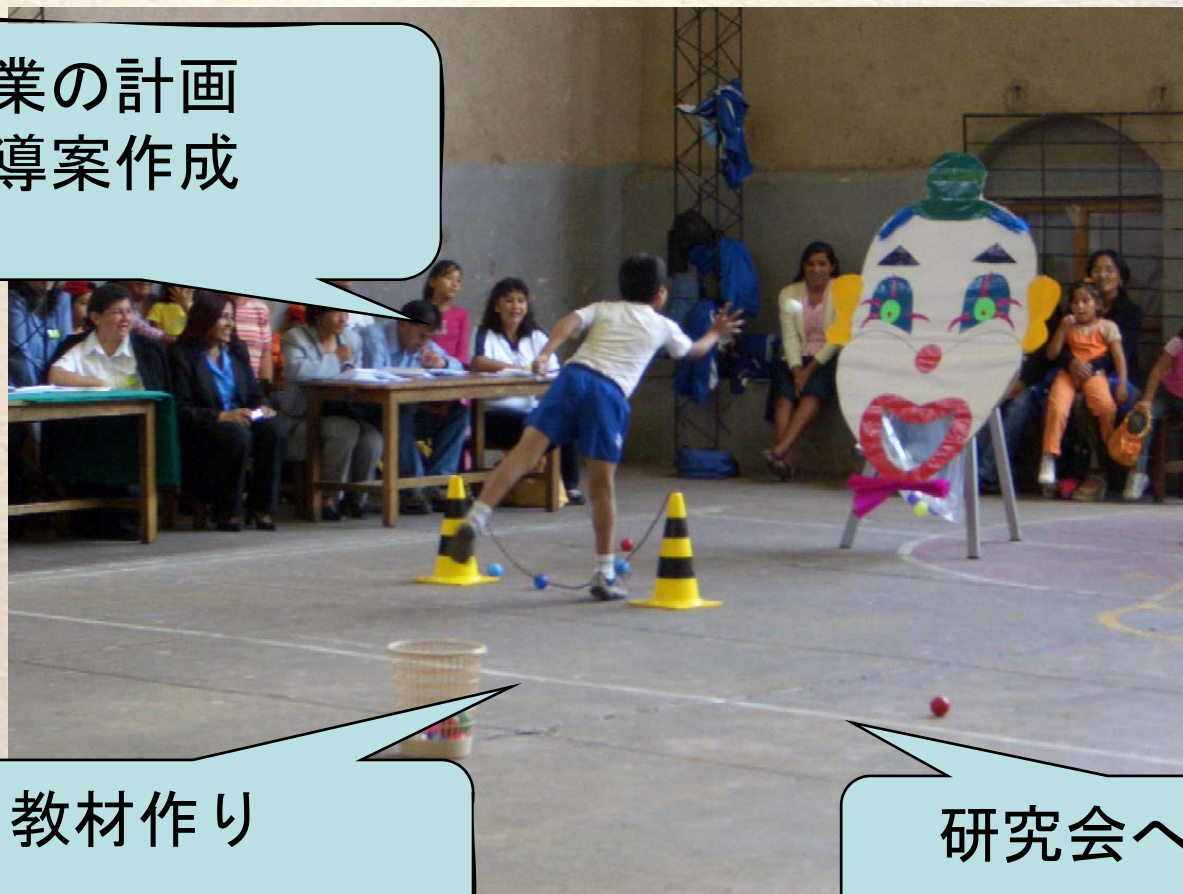
教育の質向上プロジェクトとの連携
T・Tとして算数の授業をおこなう
日本紹介（学校・地域）

「謙虚に、同僚として。」 ということを、心がけた。

ボリビアの子どもたちに、日本とのつながりを感じてほしい。

研究授業のお手伝い

授業の計画
指導案作成



教材作り

研究会への参加

100マス計算



100マス計算
中

答え合わせま
で



100マス計算のアレンジ



算数をゲームで楽しむ



日本の遊び紹介



活動前をふりかえって

- ☆日本から子どもたちの作品を持って行けばよかった。
- ☆日本のことを現地の言葉で伝える準備が必要だった。（音楽・踊りなど）
- ☆日本の学校との窓口が誰になるのかきちんと確認し、丁寧に連絡を。
- ☆なんといっても、事務の先生には大変お手をかけ、お世話になった。

活動をふりかえって

配属先及び関係者に 残せたと考えるインパクト

- ・ 直接的指導の中で子どもたちに伝えたこと
- ・ 授業中、ひとりひとりの子どもたちのところを回り、声をかけて個別に指導すること
- ・ ゴミをゴミ箱に捨てること

活動をふりかえって・・・感謝

- ・ 同僚から学ぶことが多かった。
- ・ 配属先を離れての活動もいくつかおこなった。どの活動も、ひとりではできなかったことばかり。
- ・ 活動以外の日常生活、旅、お祭りでも、たくさんの出会いがあり、ボリビアを少し知ることができた。ボリビアの人たちから、いろいろな暮らしぶりがあること、やさしくたくましく、笑顔で暮らすことを教えてもらった。
- ・ 喉元過ぎれば熱さを忘れる。いいことばかりじゃなかったけれど、いい思い出ばかりが残っている。

活動をふりかえって・・・やっぱり感謝。

- ・ 日本の学校へ、「ボリビアだより」を月に1回送ることができた。
HPにコーナーを作ってもらったり、拡大印刷して校内に貼り出したりしてもらえた。
- ・ 前の所属先にも、機会を作っていたき、子どもたちや保護者にボリビアでのことを紹介できた。
- ・ ころころよく受け入れてもらえることに感謝している。

い ま

- ・ 学年の子どもたちにとって、南米といえばボリビア。知名度はかなり高い。
- ・ 人とのつながりが広がった。JICAの方々には、国際理解教育に力をかしていただいている。
- ・ 子どもを見る目が変わった。世の中を見る目が少し変わった。
- ・ 自分の実体験を語れることは、強みである。
- ・ 伝える相手がいることに、やっぱり感謝である。

ありがとうございました。

